

令和8年4月1日

総合社会学部 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体を中心に、必要に応じて個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

直接評価によるアセスメント

N o.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な調査項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業制作ルーブリックと評価の結果	DP1～7	毎年度末	卒業学年	卒業論文・卒業制作の学修成果	総合社会学部（各専攻・部門）	個々の教員が評価を行い、結果を専攻内で共有し、授業方法やカリキュラム改善に活用
2	成績評価	DP1～7/CP	毎年度末	各学年	履修登録科目の成績、単位取得状況等	総合社会学部（各専攻・部門）	個々の教員が行った成績評価の結果を専攻で集約し、専攻の授業方法やカリキュラム改善に活用
3	時間割作成	CP	毎年度	各学年	授業に関する学生からのフィードバック等	総合社会学部（各専攻・部門・教務委員会）	進級と必修科目の重複状況、学習時間の確保等適度な空きコマの存在等、履修のしやすさについて学部での調整や情報共有

4	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	入学センター・総合社会学部学生センター	入学センターが大学協議会や各学部等に報告し、入学者の現状把握に活用
5	入学試験（学部独自）	AP	毎年	学部独自入試による入学者	学業の状況（GPA、修得単位数、学籍状況）等	総合社会学部（各専攻・部門）	学部独自入試に関して、入学後の学生に関する情報を整理し、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
6	英語プレイスメントテスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge テスト	総合社会学部（部門）	各学部が入学時点の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用

間接評価によるについてのアセスメント

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な調査項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業アンケート（全国学生調査の最終年次）	DP1～7	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	IR・教育支援センター・総合社会学部学生センター	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、各学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
2	卒業生の進路状況	DP1～7	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	キャリアセンター・総合社会学部学生センター	キャリアセンターが各学部等に報告し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業生調査	DP1～7	毎年1回	卒業後1年以上経過の卒業生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	IR・教育支援センター・総合社会学部学生センター	IR・教育支援センターが各学部等並びに教学運営会議に報告し、各学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	就職先アンケート	DP1～7	毎年1回	卒業生就職先 ※数名の	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学のDP達成度	IR・教育支援セン	IR・教育支援センターが各学部等並びに教学運営会議に報告し、各学部のカリキュラム改善、学修

				採用実績がある企業	や強み・弱みなどをアンケート聴取	ター・総合社会学生センター	支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
5	学部長会談	CP/D P1～ 7	毎年1回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度 学生生活に関する要望等	総合社会学部（学部長、教務委員会、学修支援委員会、自己点検評価委員会）	【学修行動、授業・カリキュラム満足度に関する意見】 必要に応じてIR・教育支援センターに連携し、その内容をもとに授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用 【学生生活に関する要望】 学生部にて内容を精査し、学修・生活環境の改善、自己点検・評価に活用
6	成績不振学生、休退学の調査	CP	毎学期1回(成績不振)、随時(休退学)	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	総合社会学部（各専攻・部門）	必要に応じて学生に対する面談を実施し、修学及び学修支援、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用
7	学修振り返りアンケート	CP	毎学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	総合社会学生センター	各学部が自学部実施分の結果を集計し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。 IR・教育支援センターが全学部分の結果をとりまとめ
8	全国学生調査 (2年次)	CP	毎年1回	2年生	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の印象	IR・教育支援センター・総合社会学生センター	IR・教育支援センターが各学部等並びに教学運営会議に報告し、各学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
9	GPS-Academic	CP/AP	毎年1回	1年生、3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	総合社会学生センター	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が各学部等に報告し、全学的なキャリア支援、各学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
10	学生生活実態調査	CP	隔年9～10月頃	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対する	学生部・総合社会	学生部がIR・教育支援センターに報告し、各学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充

					る評価	学生セン ター	実、自己点検・評価、情報公開に活用
--	--	--	--	--	-----	------------	-------------------

以 上

総合社会学部総合社会学科 社会・マスメディア系専攻 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業制作ルーブリックと評価の結果	DP1～8	毎年度末	卒業学年	卒業論文・卒業制作の学修成果	社会・マスメディア系専攻（教務委員、自己点検・評価委員等）	個々の教員が評価を行い、結果を専攻内で共有し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート	DP1～8	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	IR・教育支援センター・総合社会学生センター	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、社会・マスメディア系専攻のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業生の進路状況	DP1～8	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	キャリアセンター・総合社会学生センター	キャリアセンターが各学部等に報告し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	卒業生調査	DP1～8	毎年1回	卒業後1年以上経過の卒業生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	IR・教育支援センター・総合社会学生センター	IR・教育支援センターが各学部等並びに教学運営会議に報告し、社会・マスメディア系専攻のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
5	成績評価	DP1～8/CP	毎年度末	各学年	履修登録科目の成績、単位取得状況等	社会・マスメディア系専攻（教務委員、学生支援委員、自己点	個々の教員が行った成績評価の結果を専攻で集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用

						検・評価委員等)	
6	全国学生調査 (2年次)	CP	毎年1回	2年生	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の印象	IR・教育支援センター・総合社会学生センター	IR・教育支援センターが各学部等並びに教学運営会議に報告し、社会・マスメディア系専攻の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
7	GPS-Academic	CP/AP	毎年1回	1年生、3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	IR・教育支援センター・総合社会学生センター	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が各学部等に報告し、全学的なキャリア支援、社会・マスメディア系専攻の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
8	学生生活実態調査	CP	隔年9～10月頃	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対する評価	学生部・総合社会学生センター	学生部がIR・教育支援センターに報告し、社会・マスメディア系専攻のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
9	英語プレイスメントテスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge テスト	総合社会学部(教養・基礎教育部門)	学部が入学時点の英語習熟度を把握し、社会・マスメディア系専攻を含む習熟度別語学教育のクラス分けに活用

以上

令和8年4月1日

総合社会学部総合社会学科心理系専攻 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文レビュー	DP1-4/CP	毎年	卒業学年	卒業論文の学修成果	心理系専攻	個々の教員が評価を行い、結果を学部等で集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート	DP1-4/CP	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	IR・教育支援センター・総合社会学部学生センター	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	科目の履修・修得状況及び成績状況	DP1-4/CP	毎年	全学年	全般的な学修状況	総合社会学部	履修者数、単位取得状況、成績状況などを評価し、結果を学部で集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
4	海外留学・研修プログラム	CP	毎年	全学年	多文化理解・語学習得に対する意欲及び語学力	総合社会学部	学部にて参加者数及び留学先での成績・単位取得状況を把握しカリキュラム改善、学修支援や学修

	への参加状況						環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
5	卒業生の進路状況	DP1-4	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	キャリアセンター・総合社会学部学生センター	キャリアセンターからの報告をもとに、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	卒業生調査	DP1-4/CP	毎年1回	卒業後1年以上経過の卒業生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	IR・教育支援センター・総合社会学部学生センター	IR・教育支援センターからの報告をもとに、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用

以上

令和8年4月1日

総合社会学部総合社会学科 環境・まちづくり系専攻 アセスメントプラン

アセスメントの方針

専攻の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体を中心に、必要に応じて個々の学生の状況についても経年的かつ多面的に把握する。

直接評価によるアセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な調査項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文の評価基準と評価の結果	DP1～7	毎年度末等	卒業学年	卒業論文の学修成果	環境・まちづくり系専攻	個々の教員が評価を行い、結果を専攻で集約し、専攻の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	成績評価	DP1～12 CP1～8	毎年度末	各学年	履修登録科目の成績、単位取得状況等	環境・まちづくり系専攻	個々の教員が行った成績評価の結果を専攻で集約し、専攻の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
3	専攻内FD	CP1～8	毎年度期末	各学年	成績、試験、課題、ミニッツペーパー、学修行動等	環境・まちづくり系専攻	個々の教員が行った授業で得られた学生の情報を専攻内の教員で共有し、自己点検・評価、カリキュラム改善に活用
4	時間割作成	CP1～8	毎年度末	各学年	授業に関する学生からのフィードバック等	環境・まちづくり系専攻	進級と必修科目の重複状況、学習時間の確保等適度な空きコマの存在等、履修のしやすさについて専攻教員での情報共有、自己点検・評価・改善に活用
5	入学試験（学部独自）	AP1～4	毎年	学部独自入試による	学業不振の状況（GPA、修得単位数、学籍状況）等	環境・まちづくり系専攻	学部独自入試に関して、入学後の学生に関する情報を共有し、入学試験の改善、入学者の

				る入学者			現状把握に活用
--	--	--	--	------	--	--	---------

※間接評価によるアセスメントの方法は学部にて共有し、間接評価の結果は教員及び学生の成果のアセスメントの際に活用

以 上